

第17回『このミステリーがすごい！』大賞決定！

サイコパス サイコパス
大賞作は、殺人鬼vs殺人鬼『このミス』史上最凶のミステリー

受賞者は、ガスボンベ管理の34歳&最年長受賞の65歳新人

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)が主催する、第17回『このミステリーがすごい！』大賞の受賞作が決定しました。

応募総数449作品の中から、1次選考(24作品通過)、2次選考(7作品通過)を経て、**第17回『このミステリーがすごい！』大賞は、倉井眉介(くらい・まゆすけ)氏『怪物の木こり』が受賞し、井上ねこ氏『殺戮図式(さつりくずしき)』が優秀賞に選ばれました。**大賞賞金は1200万円、優秀賞賞金は200万円で、同2作品は2019年1月から順次、書籍化する予定です。

また、次回より新設されることが決定した映像化を前提とした賞「U-NEXT・カンテレ賞」を、今年のお応募の中からサプライズで選考しました。1次選考通過作品の登美丘丈(とみおか・じょう)氏の『その男、女衞(ぜげん)』が受賞し、連続ドラマ化の予定です。

『このミステリーがすごい！』大賞は、ミステリー&エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に、2002年に創設した新人賞です。これまで、第153回直木賞受賞者の東山彰良氏や、累計1000万部突破の『チーム・バチスタの栄光』シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出してきました。

受賞作品の多くはベストセラーとなり、『さよならドビュッシー』(中山七里、2013年映画化・主演:橋本愛、2016年テレビドラマ化・主演:黒島結菜・東出昌大)など、映像化作品も多数世に送り出しています。

受賞者のインタビューも可能ですので、是非、取材をご検討いただけますと幸いです。『このミステリーがすごい！』大賞は、これからも新しい作家・作品を発掘・育成し、業界の活性化に寄与してまいります。

大賞 賞金1200万円

優秀賞 賞金200万円

U-NEXT・カンテレ賞

かいぶつ き
『怪物の木こり』(仮)
2019年1月刊行予定
倉井眉介(くらい・まゆすけ)



■神奈川県横浜市
戸塚区出身・在住
■心理学科卒
■フリーター歴10年。
今年からガスボンベ
の管理会社勤務

【あらすじ】主人公のニノ宮は、辣腕弁護士にしてサイコパスのシリアルキラー。対する敵は、被害者の脳をかち割って脳を奪う殺人鬼、通称・脳泥棒。事件の背後には、人格をあやつる「脳チップ」の存在が…。

さつりくずしき
『殺戮図式』(仮)
2019年刊行予定
井上ねこ(いのうえ・ねこ)
応募時筆名:猫吉



■長野県岡谷市
出身・在住
■名古屋で40年暮らす
■ネット古書店経営
■趣味は詰将棋創作

【あらすじ】名古屋を舞台に、連続老女殺人事件の謎に挑む、警察ミステリー。犯人が仕掛けた謎ゲームの真相とは…。

(映像化賞)
おとこ ぜげん
『その男、女衞』(仮)
2019年連続ドラマ化予定
登美丘丈
(とみおか・じょう)
応募時筆名:浪華者

【あらすじ】妻を失った“女衞”の復讐劇と偽装結婚から始まるメロドラマの二重奏。

「U-NEXT・カンテレ賞」とは

次回の第18回『このミステリーがすごい！』大賞から新設される、連続ドラマ化を前提とした新賞。今回は特別に応募作の中から1作品をサプライズ選出！

■『このミステリーがすごい！』大賞とは？

ミステリー&エンターテインメントブックガイド『このミステリーがすごい！』を発行する宝島社が、新時代の新しいミステリー&エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に、2002年に創設した新人賞。大賞賞金は文学賞最高額である1200万円。受賞作はすべて書籍化。第153回直木賞を受賞した東山彰良氏や、累計1000万部突破の『チーム・バチスタの栄光』シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出している。受賞作品からは多数のベストセラーが生まれ、『警視庁捜査二課・郷間彩香 特命指揮官』(梶永正史・2016年テレビドラマ化)、『一千兆円の身代金』(八木圭一・2015年テレビドラマ化)、『がん消滅の罠 完全寛解の謎』(岩木一麻・2018年テレビドラマ化)など、映像化作品も多数世に送り出している。また、受賞には及ばなかったものの将来性を感じる作品を「隠し玉」として他の受賞作と同様に書籍化しており、『スマホを落とすだけなのに』(志駕晃・2018年11月映画公開予定)などの話題作も生み出している。

※受賞者の生年月は、年齢のご確認のみにご使用ください。

大賞

賞金

1200万



タイトル『怪物の木こり』(仮)

2019年1月 刊行予定

【あらすじ】

主人公の二ノ宮は、辣腕弁護士にしてサイコパスのシリアルキラー。対する敵は、被害者の脳をかち割って脳を奪う殺人鬼、通称・脳泥棒。事件の背後には、人格をあやつる「脳チップ」の存在が…。

殺人鬼VS殺人鬼
このミス史上最凶の
サイコ・スリラー

大学卒業後、10年間フリーターをしながら執筆を続けていました。34歳になり、さすがに筆を一旦置くつもりでガスボンベの管理会社に就職を。日々、ボンベを転がしていたところ、乱歩賞の最終選考に残り、さらに『このミス』大賞の大賞受賞と、人生って本当にわかりません。



【執筆のきっかけ】海外の映像作品をよく観るのですが、アメリカのドラマ『デクスター』の主人公が殺人鬼でありながら『人』でもあろうともがく姿をみて、「『人』であろうとするのではなく、実際に『人』になってしまったサイコパスの話でも面白いのではないか」と思ったことから、この作品を執筆しました。

倉井 眉介(くらいまゆすけ) (本名・黒岩悠介/男性)

1984年3月、横浜市戸塚出身、戸塚育ち。帝京大学文学部心理学科卒業。学生時代より社会心理学、発達心理学などに興味を持つ。卒業後、フリーターをしながら執筆を続けていたが、2018年に就職。ガスボンベの管理会社で作業員として働いていたところ『このミス』大賞を受賞。趣味は自転車。左利き。

<選評>

- ・ぶっ飛んだ設定の面白さに加えて、テンポのよさと意外性のあるプロットの魅力が光る(大森望)
- ・飽きさせない話運び、毒の強いキャラクターの描き方などにおいて抜きん出ている。勢いがあり強い個性が感じられた。(吉野仁)

優秀賞

賞金 **200万**

タイトル『殺戮図式』(仮)

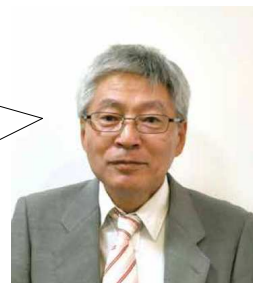
2019年刊行予定

【あらすじ】

名古屋を舞台に、連続老女殺人事件の謎に挑む、警察ミステリー。

65歳新人！
『このミス』史上最年長受賞者！

まさか、私が『このミス』大賞・最年長受賞者としてコメントを書くことになるとは思いませんでした。応募したのも締め切りギリギリで、来年にしようかなんて弱気になったこともありましたが、世の中なにが起るかわかりませんから、あきらめたらだめですね。受賞したとはいえ、今はスタート地点に立っただけ。これからが本番と考え、がんばりたいと思います。



【執筆のきっかけ】10年前にアイデアが閃いたが、長編小説を書くだけの技術がなく、11年間毎月ショートショートコンテストに応募するという荒行を決行。執筆期間3年を経て応募作が完成。今回は派手な趣向の長編ミステリーを、と考えています。

井上ねこ(いのうね・ねこ) (応募時筆名:猫吉/本名・非公開/男性)

1952年12月生まれ、長野県岡谷市出身、在住。名古屋で40年間暮らす。中京大学法学部法律学科卒。学生時代に将棋同好会、SF研究会などに所属。測量会社に勤務し、定年退職後、古物商の免許を取りネット古書店を経営。詰将棋パラダイス半期賞、日めくり詰将棋カレンダー山下賞。趣味は詰将棋創作、読書、ゲーム。座右の銘は「人生なんとかなる」。

<選評>

- ・ロジカルながら意表を突くプロットの転がし方も堂に入ったもの。ゲーム性のある本格ミステリー。(大森望)
- ・何より驚いたのは、犯人が仕掛けた謎のゲームの真相。このジャンルのミステリーにまだこんな手があったとは！(香山二三郎)

U-NEXT・カンテレ賞
サプライズ授賞

タイトル『その男、女術』(仮)

【あらすじ】妻を失った“女術”の復讐劇と偽装結婚から始まるメロドラマの二重奏。

登美丘丈(とみおか・じょう) (応募時筆名:浪華壺/本名・非公開/男)

1969年生まれ、大阪府出身、大阪市在住。会社員。

2019年
連続ドラマ化



<選評>

この物語の軸になるのは、日本の裏社会で生きるしかなかったある男の壮絶な復讐劇です。現代日本の大都市に蔓延る闇、そしてそこに横たわる人間味あふれるドラマが繊細に描かれており、かつ映像化した際のエンタメ的な伸びしろを感じさせ、拝読した瞬間に「チャレンジしたい」と思わせる内容でした。このたび、サプライズでのU-NEXT・カンテレ賞として連続ドラマ化できることを、プロジェクトチーム一同大変嬉しく思っております。ぜひご期待ください。

U-NEXT・カンテレ賞選考会

過去の受賞者には、ミリオンセラー作家や直木賞受賞者が！！



©ホンゴウジ



第4回大賞受賞
『チーム・バチスタの栄光』
 海堂尊(かいどう・たける)

1961年、千葉県生まれ。医学博士。
 第4回『このミステリーがすごい！』大賞受賞作『チーム・バチスタの栄光』にて2006年デビュー。
 2008年～2014年にかけて、伊藤淳史&仲村トオル主演で映画化&連続ドラマ化。

ミリオンセラー作家
 シリーズ累計
1000万部突破！
 2008年 阿部寛&竹内結子 主演
映画化！

伊藤淳史 & 仲村トオル 主演
映画化&ドラマ化
 (2014年) (2008年～)



第1回大賞受賞
『逃亡作法 TURD ON THE RUN』
 東山彰良(ひがしやま・あきら)

1968年、台湾生まれ。福岡県育ち。
 第1回『このミステリーがすごい！』大賞受賞作『逃亡作法 TURD ON THE RUN』にて2003年デビュー。『路傍』(集英社刊)にて第11回大藪春彦賞を受賞。『流』(講談社刊)にて第153回直木賞を受賞。

第153回
直木賞
受賞作家

ベストセラー作家・映像化作品も多数！！



第15回隠し玉『スマホを落としただけなのに』
 志駕晃(しが・あきら)

1963年生まれ。神奈川県横浜市在住。明治大学商学部卒業。
 ニッポン放送入社後、「ウッチャンナンチャンのオールナイトニッポン」「中居正広のSome girl」SMAP」など多数のラジオ番組制作に関わる。
 第15回『このミステリーがすごい！』大賞の隠し玉として『スマホを落としただけなのに』で、2017年デビュー。

2018年11月
 北川景子 主演
映画化決定

発行部数
30万部突破



第15回大賞受賞『がん消滅の罠 完全寛解の謎』
 岩木一麻(いわき・かずま)

1976年、埼玉県生まれ。千葉県在住。
 国立がん研究センター、放射線医学総合研究所で研究に従事。
 現在、医療系出版社編集部勤務。第15回『このミステリーがすごい！』大賞受賞、2017年デビュー。

2018年
 唐沢寿明 主演
ドラマ化！

発行部数
40万部突破



第8回大賞受賞『さよならドビュッシー』
 中山七里(なかやま・しちり)

1961年、岐阜県生まれ。『さよならドビュッシー』にて第8回『このミステリーがすごい！』大賞受賞、2010年デビュー。
 2013年には橋本愛主演で同作が映画化。2016年には黒島結菜・東出昌大主演でドラマ化。2017年9月には『連続殺人鬼カエル男』の主要キャラクター・渡瀬が主人公となる『テミスの剣』(文藝春秋刊)が上川隆也主演でドラマ化。

2016年 黒島結菜&東出昌大 主演
TVドラマ化！

「さよならドビュッシー」シリーズ
 累計 **120万部突破**



第11回大賞受賞『生存者ゼロ』
 安生正(あんじょう・ただし)

1958年、京都府生まれ。『生存者ゼロ』にて第11回『このミステリーがすごい！』大賞受賞、2013年デビュー。シリーズとして『ゼロの迎撃』『ゼロの激震』を刊行。いずれもベストセラーに。

「ゼロ」シリーズ
 累計 **130万部突破**

デビュー作シリーズ化！



第15回優秀賞受賞『京の縁結び 縁見屋の娘』
 三好昌子(みよし・あきこ)

1958年、岡山県生まれ。大阪府在住。主婦。嵯峨美術短期大学洋画科卒業。少林寺拳法を7年、居合道を8年続け、少林寺拳法初段、居合道二段を取得。
 第15回『このミステリーがすごい！』大賞・優秀賞を受賞し、2017年デビュー。

「縁見屋の娘」シリーズ
 累計 **23万部突破**